

平成29年度 学校評価書

学校名:和歌山市立和歌山高等学校定時制 学校長名:勝本 泰弘

目指す生徒像	○社会の変化に対応できる思考力・判断力・表現力を身につけた生徒の育成 ○平和を愛し、人権やルールを大切にすると人間愛に満ちた生徒の育成 ○運動能力を高め、健康で安全な生活を営む生徒の育成
--------	---

本年度の重点目標 ○安全教育の推進 ○豊かな心の醸成 ○確かな学力の育成	・自他の安全に配慮して安全な行動がとれるよう、安全教育を推進する。
	・基本的な生活習慣を確立させ、豊かな人間性と創造性を備えた生徒を育成する。
	・基礎・基本を定着させ、情報化社会に積極的に対応できる能力を養う。
	・勤労を重んずる精神を養うとともに、個人の適性に応じた進路指導を推進する。

達成度	A	十分に達成した(80%以上)
	B	概ね達成した(60%以上)
	C	あまり十分でない(40%以上)
	D	不十分である(40%未満)

現状と課題	課題解決の取組	自己評価	改善充実策	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者評価
安全教育・安全管理 学校安全計画に基づき、年間を通して、各教科やホームルーム活動、学校行事等で安全教育に取り組んでいる。ただ、現場の危機感が不足しているように思われる。	ホームルームやアセンブリー等で安全教育・安全指導を行っている。 また、学習環境の安全点検・整備を毎月初めに実施している。 本年度は地震対応に津波対応も加え避難経路を見直して避難訓練を実施、防災・安全教育の充実を図った。	2学期実施した保護者アンケートにおいて「施設・設備等を含め危機管理体制は整備されていると思いますか。本校の生徒は、明るく生き生きと学校生活をおくっているといますか。」で殆どの割合で出来ていると回答をいただいた。この取り組みを引き続き実施していきたい。	災害や防災についての意識高揚と知識の向上を図る。特に地震と津波を想定した停電下での避難訓練を実施するとともに、緊急地震速報が発令された際の対応について質の良いDVDを鑑賞して、感想文を書かせる取り組みを行う。	A	保護者アンケートで概ね良い評価を得ているので、引き続き事故防止や防災時の行動についての注意喚起と、如何なる場合でも命を大切にすると取り組みを続ける事が大切だと考える。	・避難訓練等一過性にならないよう工夫し継続していただきたい。また、有事の際に活用できる救急救命講習の実施も今後検討すべきである。
生活指導 自分自身で持ち物を管理することが不得手であったり、時間に対する概念がおおらかな生徒や授業に対する集中力を持続させることが苦手な生徒が多い。また、自転車・原付通学の生徒も多く、交通安全指導の徹底も重要である。	基本的な生活習慣を身につけ、社会の一員として十分な資質を身につけられるよう家庭や地域とも連携して取り組む。 また、外部講師を招いて交通安全講話や薬物乱用防止講座等を開催し、いのちの大切さや他者への思いやりを学習し、実践する。	定時制の特徴を活かし、日常的に生徒と積極的にコミュニケーションを取り、さらに教育相談やカウンセラーとも情報共有することでいじめ等を未然に防ぐことができた。外部講師の講座においても生徒たちが主体的に参加し、真剣に耳を傾けることができた。	ホームルーム活動を通じて、学校での生活習慣の見直しや登下校時の安全について指導の充実を図る。 学校行事等の内容を充実させ、クラス及び学校全体の親睦をはかり、交流を深めることで社会性や協調性を身につけさせる。	B	交通安全、たばこ・薬物の有害性、スマホやSNSにおける情報モラル・セキュリティ・リテラシーの指導を継続して行く。 教師からの声かけを大切に、生徒一人ひとりに適した指導を行うことができるよう学校全体で取り組んで行く。	・個々を大切に生徒指導が実施されている。 ・スクールカウンセラーの導入は生徒及び教員に良い効果をもたらしている。今後も導入することでさらなる効果が期待できる。また、事件事故の防止に専門家を招聘した講習会は重要である。今後も継続して開催していただきたい。
学習指導 高校入学まで不登校であったり、学校を休みがちな生徒、また学習に取り組む姿勢が身に付いていない生徒が依然として多く入学しているため、そのような生徒たちに対する適切な対応が必要である。また、三修制の生徒の「高等学校卒業程度認定試験」の受験等による負担をできるだけ軽減し、スムーズに卒業単位を修得できる制度の確立が必要である。	学び直しの観点から考慮し、各科目において基本的な学力の定着を目指した補助教材の作成、反復練習による確実な学習内容の定着等、工夫を凝らした授業を行っている。欠課時数が増加傾向にある生徒には、随時指導を行うとともに家庭と連絡を密にし、保護者との連携を取りながら細やかな指導を行っている。また、三修制の生徒における負担が軽減するよう、増加単位を認定する制度を本年度入学生より実施している。	各科目において、中学校までの既習事項等を含め基本的な内容が確実に定着することを旨とした授業を実施している。また、生徒たちが学習することの楽しさと達成感を感じることができるよう授業を展開するように心がけている。多くの生徒は、教員の授業に対する熱意を感じているようである。また、夏季休業中に数学、英語、商業の教科で夏季補講を開講する等、学習意欲の高い生徒にも対応した措置も行っている。	引き続き、基本的な学力の定着に努め、補助教材の作成や反復練習に重点を置いた授業を中心として指導していく。学力差や多様な個性を持つ生徒一人ひとりが理解でき、さらに学ぶことの楽しさを感じる授業を展開できるよう、一層の工夫を行う必要がある。	B	生徒一人ひとりの学力差に対応した授業と指導が必要である。特に基礎学力の向上に努めなければならない生徒は欠課時数が多いと思われる。生活習慣と合わせて指導していく必要がある。また、学習意欲の高い生徒には、より高度な学習内容や各種検定の学習へと発展させるような指導体制を整える必要がある。	・引き続き基礎学力の向上及びコミュニケーション能力をしっかりと身につけるよう指導していただきたい。 ・生徒の興味関心を喚起する教材が用いられ親切丁寧な学習指導が行われている。
進路指導 生徒のなかには積極的に相談することが苦手なものもあるので、こちらから授業前や休憩時間等、あらゆる機会をとらえて声かけをおこなってゆきたい。さらに昨年同様NPO法人キャリア・ファシリテーター協会と連携し、就業支援・自立支援を目的とした講義を予定している。	11月時点で進学希望者4名は全員合格を勝ち取ることができた。就職希望者に関するも指定求人が0件のなか生徒に対して積極的に声かけをおこなった結果、WEB求人での1名の生徒が採用内定をもらい、2名の生徒が現在選考試験待ちの状況である。	卒業予定者に対する進路支援はもちろんのこと、全ての生徒に対してアルバイト等、卒業後の進路が少しでも有利かつスムーズにいこう今後も継続して指導を行いたい。また関係機関との連携をさらに推進し、多様な立場からの助言を得て、進路指導を拡充すべきだと考えている。	卒業予定者に対する進路支援はもちろんのこと、全ての生徒に対してアルバイト等、卒業後の進路が少しでも有利かつスムーズにいこう今後も継続して指導を行いたい。また関係機関との連携をさらに推進し、多様な立場からの助言を得て、進路指導を拡充すべきだと考えている。	B	本年度「応募前サマー企業ガイダンス」への参加者が1名のみであった。その他にも何回かの企業説明会があり紹介をおこなったが参加生徒がなかった。平日昼間のことで定時制課程生徒はアルバイト等もあり参加しづらい面もあるが、他校生徒からも刺激を受けたり、進路意識の向上等メリットが多いため、引き続き参加を勧める。	・一部の生徒の中には、仕事に対して正業として働こうとする切迫感が見受けられない。「就業」の意味について、もう少し工夫を凝らした指導が必要であると感ずる。